

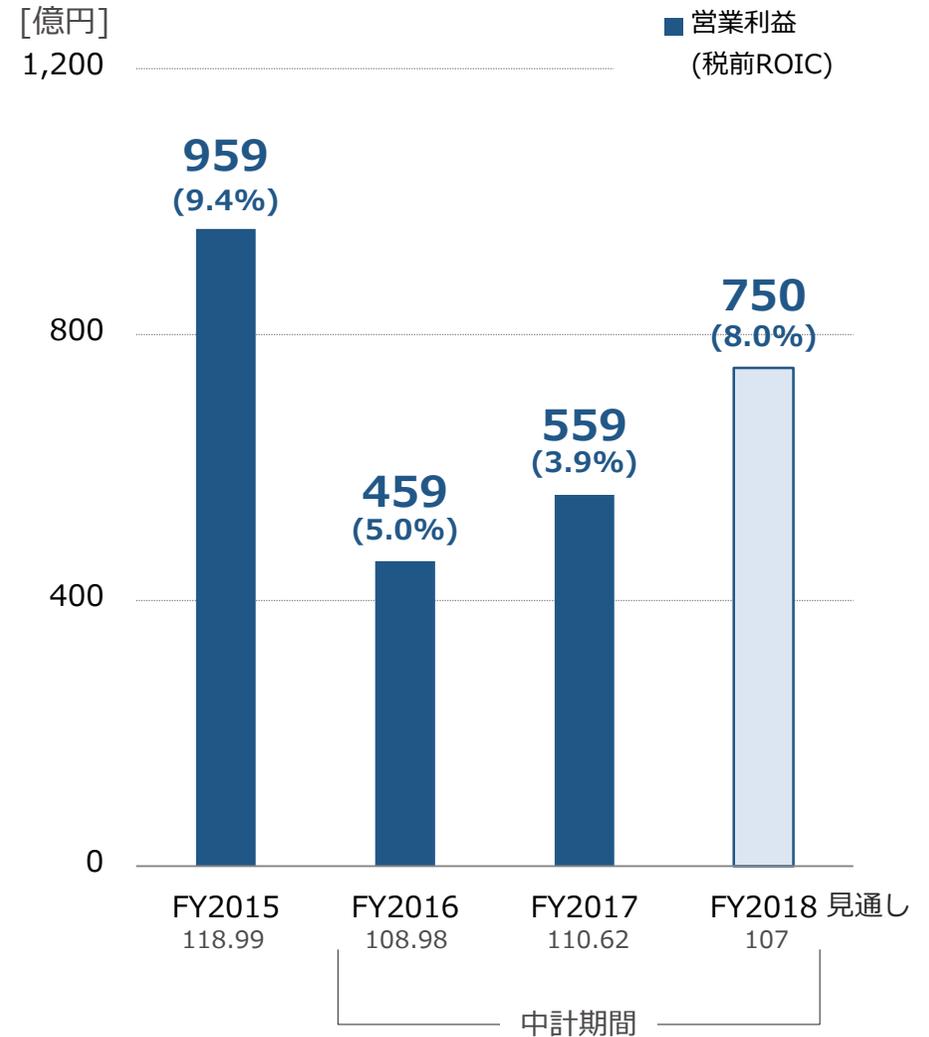
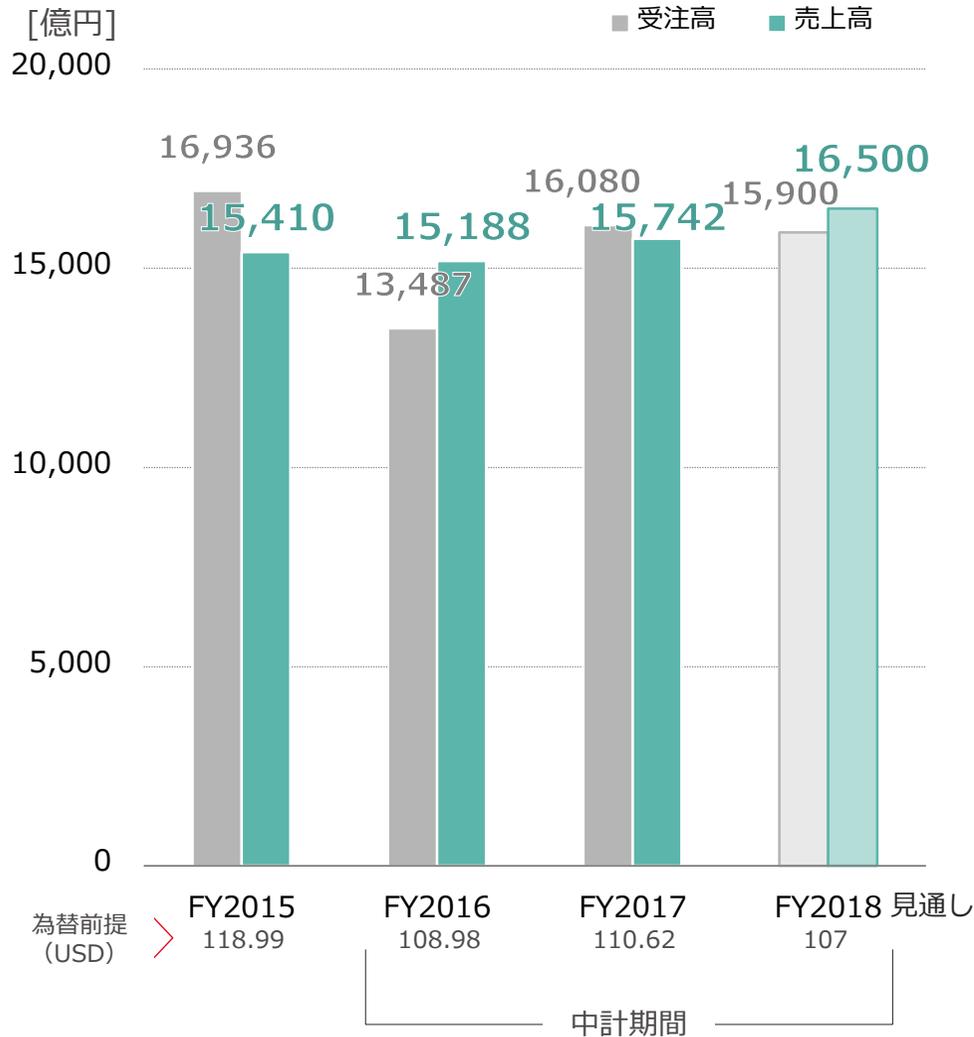
# 経営概況説明資料

2018年4月26日

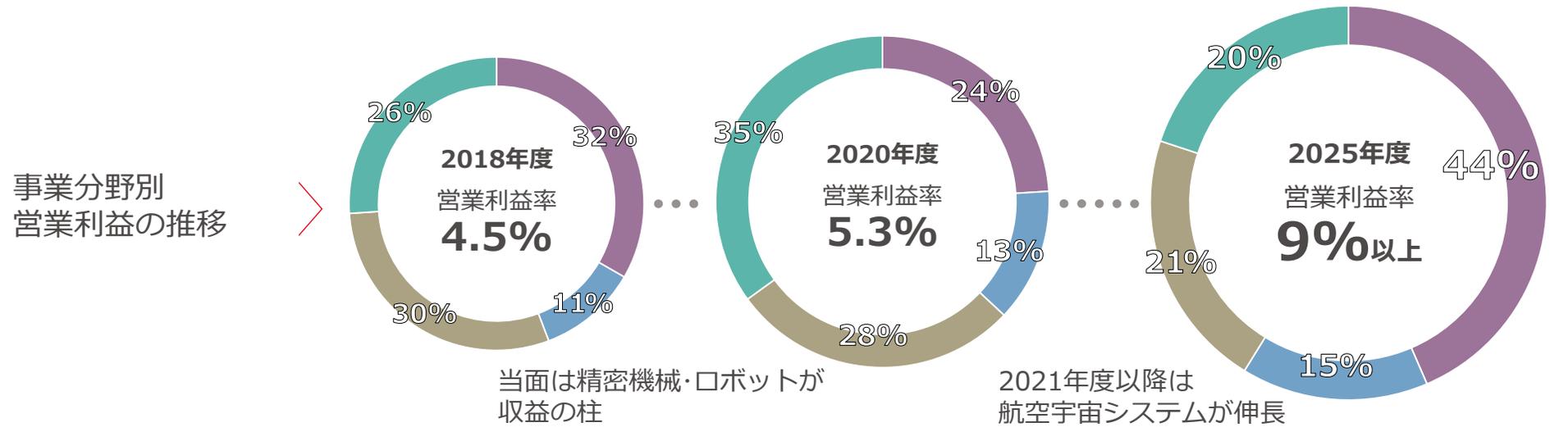
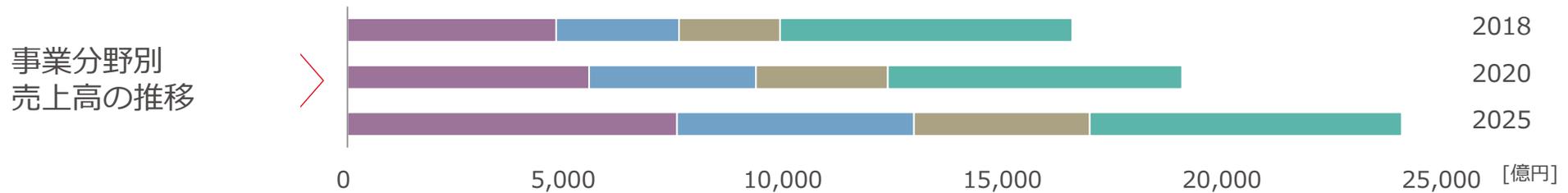
川崎重工業株式会社



# 「中計2016」期間中の業績推移

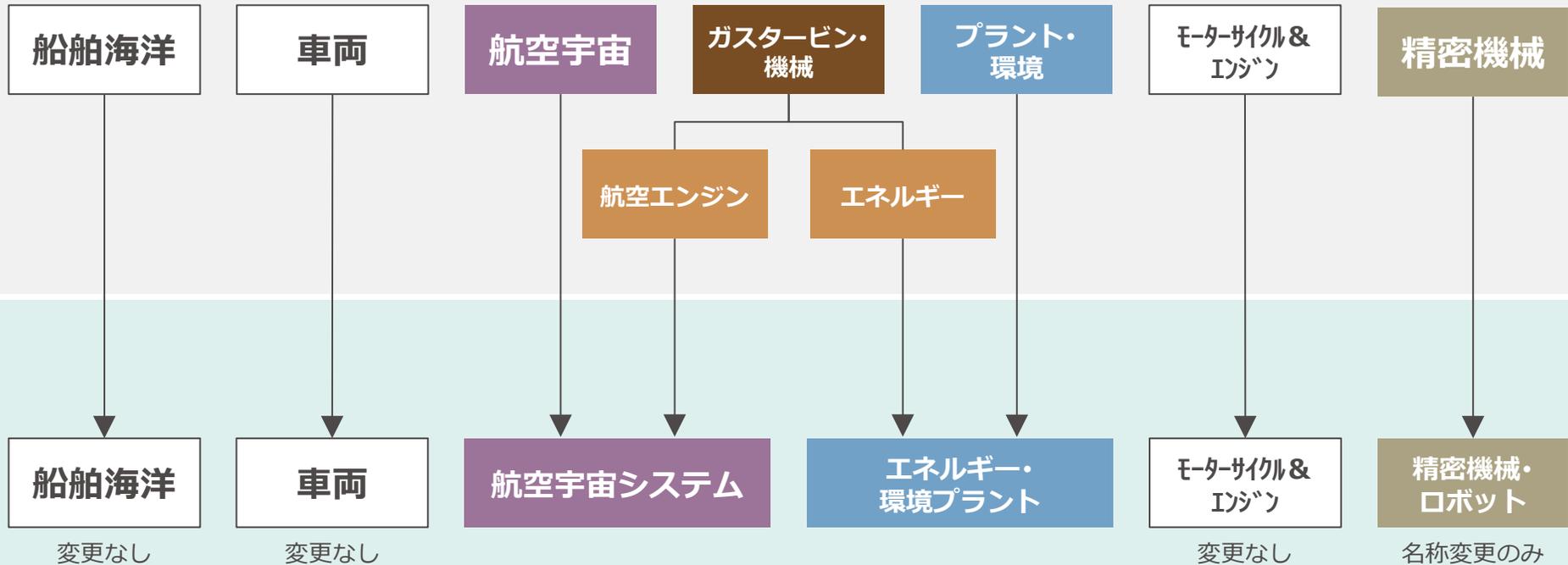


# 事業ポートフォリオ戦略



# カンパニーの改編（組織・名称変更）

## 【旧体制】



## 【新体制(2018年4月より)】

# カンパニーの改編（航空宇宙システム 1/2）

## 新カンパニーの目指す方向・改編によるシナジー

### 航空宇宙システムカンパニー

#### グローバルコスト競争力の強化

生産拠点、サプライチェーンの  
相互活用

KPS改善成果、  
先端生産技術の共有

#### 連携による事業拡大・強化

機体とエンジン／トランスミッション  
の連携事業

MRO事業  
(Maintenance, Repair and Overhaul)

#### 新規事業の創出

機体関連技術と  
エンジン関連技術の融合

### ➤ これまで実施してきた機体とエンジン／トランスミッションの連携事業



P-1 / C-2



防衛省機用発電機

航空機共同開発例



BK117

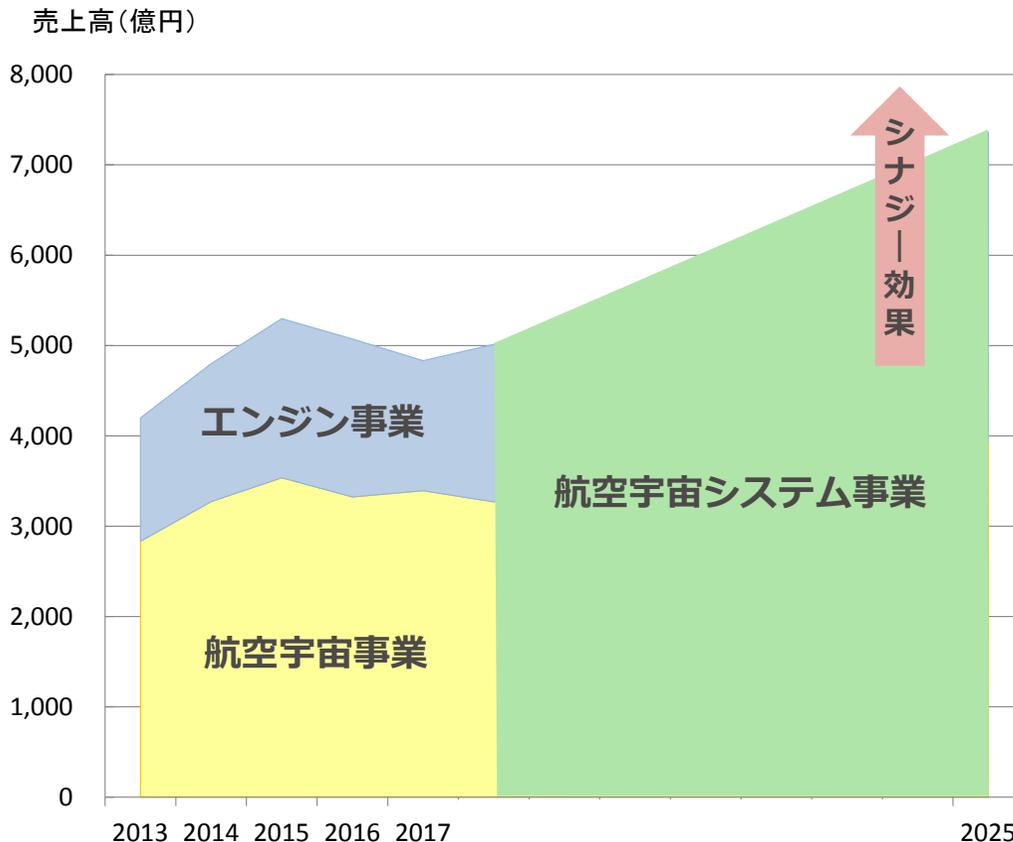


トランスミッション

ヘリコプタ共同開発例

# カンパニーの改編（航空宇宙システム 2/2）

- ▶ **航空宇宙システム事業は、2025年に売上高7,000億円を目指す**
  - 基盤技術を相互活用し、システム技術として融合させ新規事業を創出する
  - シナジー効果を追求し、更なる収益力の向上・事業の拡大を実現させる



## エンジン関連技術

- エンジンモジュール関連技術（圧縮機、燃焼器、ギア）
- 小型エンジンシステム技術
- 装備品関連技術（電源等）
- トランスミッション関連技術

## 航空宇宙関連技術

- 機体のシステムインテグレーション技術
- 複合材適用技術
- 空力設計技術
- 先端生産技術（IoT生産技術等）

# カンパニーの改編（エネルギー・環境プラント 1/2）

新カンパニーの目指す方向・改編によるシナジー

## エネルギー・環境プラントカンパニー

コアハード強化 と コアハードを組み合わせたシステム提案によるビジネス展開

コアハードの強化と  
その組み合わせによる最適システム構築

分散型エネルギー供給  
システムの提案

CO<sub>2</sub>フリー社会に貢献する  
システムの構築



### ➤ CCPP標準パッケージの展開 (Combined Cycle Power Plant ※)

- 標準化によるプロジェクト案件対応の効率化、見積精度の向上、コストダウンの推進
- 自社高効率ハードの組み合わせと最適制御による顧客ニーズに応える最適プラントの提供
- 国内から東南アジア、全世界へ100MW級発電設備の展開

※ コンバインドサイクル発電(combined cycle)は、ガスタービン・蒸気タービンなどを組み合わせた二段階での発電方式。ガスタービンCCPPは、ガスタービン発電により発生した高温高压の排出ガスのエネルギー(排熱)を排熱回収ボイラにより蒸気として回収し、この蒸気を用いて蒸気タービンによる発電を行うことで、エネルギーロスの少ない発電を行うシステム。

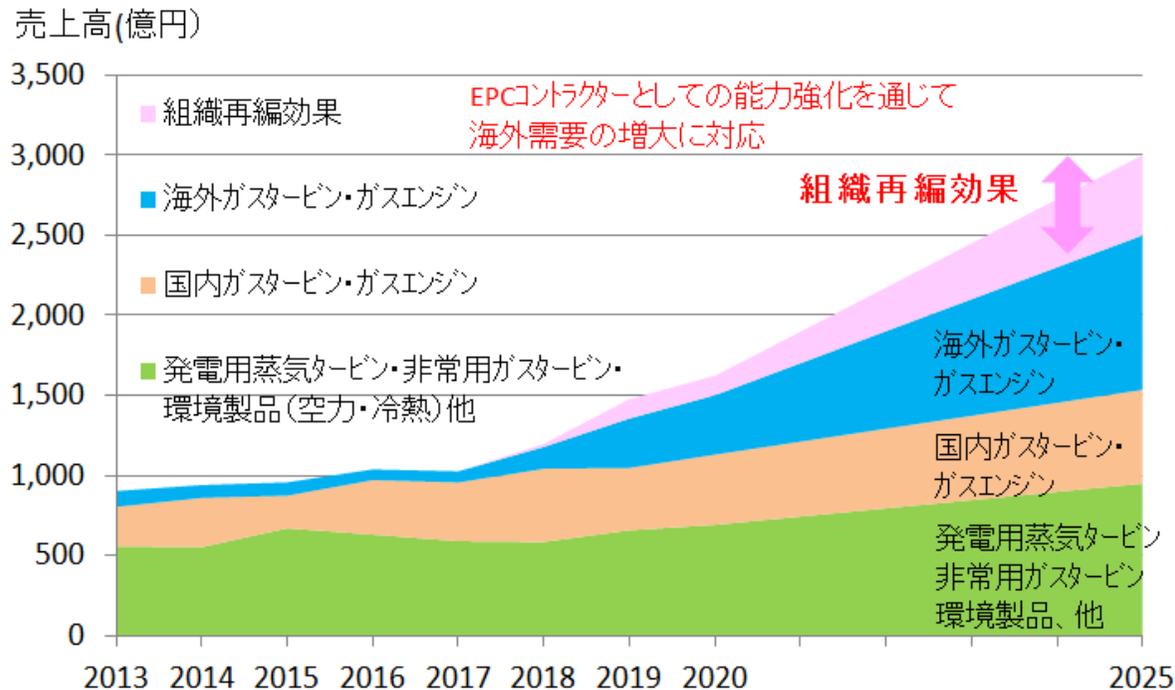


CCPP標準パッケージ鳥瞰図

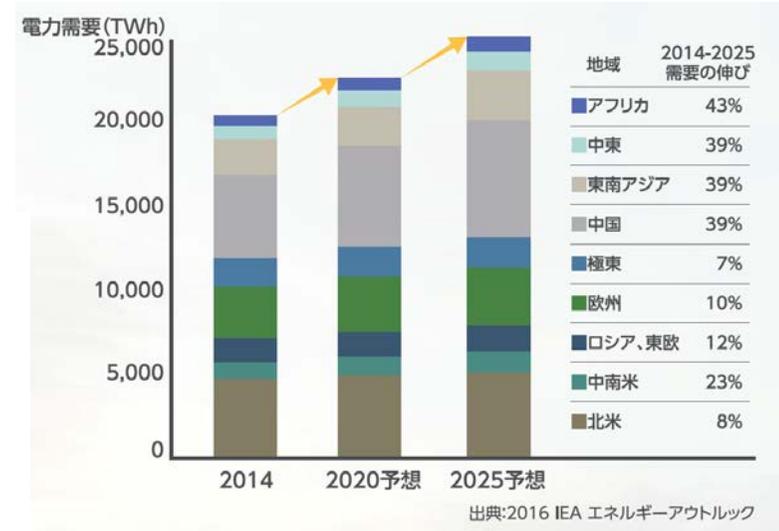
# カンパニーの改編（エネルギー・環境プラント 2/2）

## ➤ エネルギー事業は2025年に売上高3,000億円を目指す

- 海外向けの伸長、EPC受注促進による売上拡大
- 東南アジア地域での拡販を目指す



## ➤ 世界の電力需要動向



## ➤ お客様のニーズ



# 台車製造不備事案を受けた全社品質管理体制について

## 全社品質管理委員会の構成

### 全社品質管理委員会

品質管理工学の権威者、社外弁護士、取締役などで構成  
調査チームから調査結果の報告を受け、問題点を明確化  
するとともに、是正に向けた方策を協議・決定する。

報告

### 調査チーム

社外コンサルタント、社内の品質管理専門家などで構成  
まず車両カンパニーにおいて本事案の原因究明を行う。  
今後、カンパニーにおける品質管理システムの実情についても  
詳細な調査を行い、委員会に調査結果を報告する。

# ROICによるランク付けの推移

[単位:BU数]

ROIC区分	2017年4月時点	2018年4月時点 <sup>※</sup>
<b>A</b> 業界トップクラス	5	<b>6</b>
<b>B</b> 企業価値に安定的に貢献	11	<b>11</b>
<b>C</b> 業績変動の低減を図る	6	<b>3</b>
<b>D</b> 投資効率改善を要する	4	<b>6</b>
<b>E</b> 構造改善策の検討・実施	4	<b>2</b>
対象年度	実績:2015～2016年度 計画:2017～2019年度	実績:2016～2017年度 計画:2018～2020年度
実績/前提レート(円/\$)	2015年度 :118.99円 2016年度 :108.98円 2017～2019年度 :105.00円	2016年度 :108.98円 2017年度 :110.62円 2018～2020年度 :111.00円

※2017年4月以降、一部BU区分の組替を行ったため、2018年4月時点は組替後のBU数を開示している

# 世界の人々の豊かな生活と地球環境の未来に貢献する “Global Kawasaki”

## ご注意

本資料のうち、業務見通し等に記載されている将来の数値は、現時点で把握可能な情報に基づき当社が判断した見通しであり、リスクや不確実性を含んでおります。従いまして、これらの業績見通しのみを依拠して投資判断を下すことはお控え下さるようお願い致します。実際の業績は、外部環境及び内部環境の変化によるさまざまな重要な要素により、これら  
の見通しとは大きく異なる結果となり得ることを御承知おき下さい。実際の業績に影響を与える重要な要素には、当社の  
事業領域をとりまく経済情勢、対米ドルをはじめとする円の為替レート、税制や諸制度などがあります。